

東海村生物多様性地域戦略

— 自然の恵みが持続するまちづくりに向けて —

東海村

はじめに

私たちの住む東海村は、雄大な関東平野の始まりの地であり、東は太平洋を望み風光明媚な黒松林と砂丘が広がり、北は常陸風土記ゆかりの久慈川が清流をたたえています。

この地域は、夏は涼しく冬は暖かい気候であり、黒潮と親潮が交わる我が国の重要な漁場である海域を有するとともに、陸地の動植物も北限と南限の様々な野生生物が混在する生物多様性の空間が創出され、多くの命がはぐくまれています。

例えば、生育地の南限とされる植物オオウメガサソウ、生息地が北限とされる幻の魚カワアナゴ、豊かな自然の指標種であるトウキョウサンショウウオやオオムラサキ、海岸線を彩るスカシユリなど貴重な動植物を身近にみることができます。

私たちの生活に目を移すと、久慈川のサケや川のり、水はけのよい土地で育つ果樹やなだらかな標高差によって育まれる稲と美しい田園風景、さらに、大地と冬の乾燥した寒風によってつくられる干しいもなど、健全たる自然の恵みが様々なところで私たちの暮らしを支えてきたことがわかります。

しかし、産業革命以降の人間活動や経済活動の拡大など多くの要因を背景に、東海村においても、自然環境の減少や汚染、外来種の侵入などが問題視されるようになり、生物多様性の喪失とともに、私たちにとって大切な自然の恵みも劣化・減少が加速しています。

こうしたことから、東海村では、「東海村第5次総合計画」の基本目標として、自然は私たちの生活の基盤であること、地域の豊かな自然や命を次代につなぐことを明示しました。平成24年度からは、県内に先駆けて「東海村生物多様性地域戦略策定委員会」を立ち上げ、2カ年にわたり、本村における生物多様性の保全・再生の仕組みづくりや自然の恵みが持続するまちづくりについてご議論いただき、この度、そのランドデザインを描いた「東海村生物多様性地域戦略」を策定いたしました。

この戦略を通して、本村における生物多様性を「守る」「生かす」「育てる」「協力し合う」の様々な取り組みを後押しすることにより、東海村のイメージデザインとしてクローズアップされ、自然の恵みが持続する環境価値の高いまちづくりが実現することを願ってやみません。

最後に、本戦略の策定にあたりまして、「東海村動植物生態系調査検討委員会」や「東海村生物多様性地域戦略策定委員会」の方々をはじめ、村民の皆様から貴重なご意見ご提言を賜りました。この場をお借りしてご協力いただいた多くの方に深く感謝を申し上げます。

平成26年 3月



東海村長 山田 修

目次

第1章 戦略策定のねらい

1 生物多様性がもたらす自然の恵み	4
2 生物多様性地域戦略とは	5
3 生物多様性に支えられた村民の生活や産業	6
4 戦略策定の目的と位置づけ	7

第2章 自然の恵みが持続する‘まち’の将来像

1 目標とする東海村の将来像	10
2 未来につなぐ‘まち’のかたち	13

第3章 自然の恵みが持続する‘まち’の仕組みづくり

1 行動計画の体系	24
2 行動計画	25

第4章 推進体制と進行管理

1 戦略の推進体制	48
2 戦略の進行管理	49

資料編

1 東海村の生物多様性の現状と課題	52
2 自然の健全さを示す主な種の解説	64
3 用語解説	75
4 名簿	79
5 写真提供	81